

ジオパークガイド養成講座2021 8コマ目 受講者回答集

設問1 ジオパークガイドとしての抱負と今後の具体的な活動について

受講者 1

すでに移住して6年ほどが経過したので、今回のジオパークガイド知識も取り入れながら、野町でしっかりと事業化した営農型太陽光発電での知識も加味して、ガイド活動を行っていきたい。作付作物（よもぎ）も三好市の「ふるさと納税返礼品」として認められ、商標登録までされたので、新たな三好市の観光産物の一つと位置付けできたため、三野町の農業と今後の展望を私独自に案内ができるのかと考えている。

受講者2

四国在住ではない、ジオパークエリアを熟知していない（何度も足を運んで経験していない）私には、定期的にジオツアーガイドを務めることは非常に困難である。そう講座 6 コマ目で考え始めました。実際的なジオパークガイド養成を目指しておられる三好市には、誠に申し訳ないと感じております。

市外（四国外）の関係人口として三好ジオパークを話題にし、三好ジオパークエリアに興味を持ち行ってみようと思われる方を増やすこと、尋ねられた場合には正しく応えるための学習を継続いたします。

アフターコロナにはプロの全国通訳案内士として訪日客に三好ジオパークを（話題として）紹介し、現地へ案内することになった際にはジオパークガイドの先輩方と連携したいと思います。

今回の講座はオンラインでしたので遠隔地の私にも機会が与えられ、貴重な機会を賜うことができ深く感謝いたします。その一方で、ジオパークガイドの先輩方とのつながりを構築することができなかったのが残念です。（ネットワーク構築の機会を設けていただけると嬉しいです。）

距離と予算を考えると容易ではないのですが、ジオパークガイドの先輩方とエリアを体験する機会を掴みたいと思っています。まずは自分がしっかりジオエリアと三好市を経験することから始めたいと思います。自身が現地を経験することで、講座で得られた知識を他人に伝えられる自分の血肉に変換していく努力をしようと考えています。

受講者3

これを持って、ジオパークガイド養成講座の受講修了者としていただけるならば、一段落することができます。ジオパークガイドの要員の一人であるとしても、いきなりガイドを実施する実力はありません。しかし、各種のジオパーク活動のイベントには参加したいですし、養成があれば手伝い人としての参加もしたいと思います。それから、この構想に係って活動をしている方々との交流もお願いできるならば、旧三好郡で生まれたものとしても有り難いことだと思っています。そうしたことから当地域のサイトについての知識も増やすことができるかもしれません。また、自ら積極的に勉強することが必要だと思っています。

勉強するならば、まず自分がガイドを実行する予定のサイトから始めなければなりません。私の住居が東みよし町足代の美濃田の淵の近くですので、吉野川への興味は以前から持っていました。それで、まず一歩としては当構想エリアの中で吉野川に関する勉強から始めれば良いだろうと考えています。

受講者4

この度、三好市ジオパーク構想のガイド養成講座に参加し、こうして8コマ目レポート提出まで来ました。私の所属するJFGという全国通訳案内士の団体からの紹介でプチ養成講座を含めて三好市ジオパークの存在を知りました。2022年現在、日本にはジオパークが46地域あり、また、三好市のように10地域が現在ジオパークを目指しています。

私は全国通訳案内士、つまり英語で海外からの観光目的で来られるお客様を旅行地で案内する資格を取るまで、海外生活が長く、海外の観光地は馴染みがあっても、日本国内の観光地に足を向けることは、ほとんどありませんでした。

三好市ジオパーク構想のガイド養成講座を受ける前の、コロナ禍の数年前くらいから国内旅行を始め、今治から尾道までのしまなみ海道、香川県の直島、栗林公園等を訪れて、また、四国が台湾のように自転車の旅行を誘致していることも知り、とても身近になってきました。

私は今後、公認の英語観光ガイドとして、いわゆるロングツアーという二週間くらいのツアーのガイド専門として行くにあたり、有名な国立公園、国定公園でジオパークである地域のジオパークのガイドとしても活躍していきたいと思います。三好市ジオパークを始めとして、比較的東京に近い伊豆半島、故郷の鹿児島にあるジオパークを得意として自分の仕事を進めて行く予定です。いわゆるゴールデンルートの関西から中国・四国地方を観光案内する中に吉野川、祖谷の蔓橋、大歩危・小歩危をどう入れていけるかがチャレンジだと思っています。それと別にアウトドア活動として四国のサイクリングツアーでツアード・西阿波のコースをダイナミックなジオパークの景観を楽しみながら紹介していきたいと思っています。可能な限りツーリズム活動の先に立って三好市ジオパークを盛り上げていきたいです。

受講者 5

今私はジオパークガイドとして、3年目が過ぎたところです。ガイドとして、まだまだ未熟で勉強することが沢山あります。さて、今後ガイドとして、どのような活動を具体的にしていきたいか、ということですが3つの項目で述べさせていただきます。

① 地域の人にジオへの関心を持ってもらう。そのためイベントなど企画してジオ活動の大切さや素晴らしさを知ってもらう。ジオに関心のある方には、少しずつジオパーク活動が浸透して来てはいるとは思いますが、一般の人にはまだまだ知らない人が多いと思います。地元にある素晴らしい場所を知ってもらい、誇りに思ってもらえるよう情宣活動をしていきたいと思っています。

② 他地域のガイドさんとの交流を通して、それぞれの良さや、ノウハウを勉強して、ジオパークガイドの改善やレベルアップに繋げていきたい。また情報の収集を図って行きたい。

③ ガイドのレベルアップを図りたい。説明だけに一生懸命なガイドではなく、お客様に楽しんでもらう、満足してもらう、もう一度来て見たい。と思ってもらえる「おもてなし」のガイドを目指します。また、地元ガイドとのコラボを通して切磋琢磨してガイドのレベルアップを図って行きたい。

受講者 6

◎自分の目標とするガイドは、持っている知識を新たな学びや体験を経て、更新しながら、ガイディング力を向上させていこうとするガイドです。講座での学びは、その軸となるものです。

①努力すること、時間を作り、機会をとらえ、知識として学び、知の更新をして、ガイドの中に難しい言葉を使わずに、更新したものを少しずつ計画的に取り入れています。そのために、現地での体験など、研修を積んで経験値そのものも高めていきたいと思っています。その下支えとして、広く人と交わり、清掃や古道の復活などのボランティア活動に取り組み、地味で目立たないこともやり遂げる、そんな人としての生き方を大切にしています。

②信条は、知っていることを説明する、教えてあげる、のではない

歩く時の目線や足に感じる大地の勾配、色・音・など、できるだけお客さんの五感に響く、投げかけや問いを発して、一緒に考えてもらって、すっと腑に落ちる解が持てるようお手伝いをしていくことです。回数をこなして慣れてきた池田の市街地ツアーで、お客さんに「ブラタモリみたいですね」と言われることがあるのは、とても嬉しいことです。

③でも、私は、どんなツアーにも対応できるガイドになりたい

この一年半経験してきた、市街地ガイド・大歩危などの現地ガイド・バス車中も含めてのガイド・遊覧船の中も対応できるガイド・ラフトボートに乗って案内できるガイドなどです。ツアーによって、難しさが違うので、その違いを踏まえて考えています。事務局長が素晴らしいので多くの示唆を受けています。が、台本を借りて覚えるのではなく、参考にしながら、勉強して、現地へ行って話を聞いて実感したりして、自分で作ることを心がけてきました。力は足りないけれど、その姿勢は、ずっと大切にしています。

④学校への出前授業が一番楽しみ

故郷の貴重な財産として、学ぶ価値を自分が強く感じているからです。実際のツアーでは、大人のお客さん、私と同年代や高齢の方が多いのですが、どんな雰囲気でもガイドを務めるのか、お客さんに寄り添って楽しませる、ガイドができるのかを常に考えて活動していきたいです。

受講者7

他県に住んでいるため、三好市のジオパークガイドとして活動することは難しいが、今回の受講を通して得た新しい視点（新ジオツーリズム）を、地元（神奈川県）で現在、関わっている国際親善交流・ガイドのボランティア活動に活用したい。また今回の講座を受講したことにより、三好市在住のガイドでなくとも、その理解者・応援者となり、私自身が三好を訪れる機会もあるだろうし、また私の地域で人に話、結果、広報に多少なりとも寄与出来ればと思う。今後の具体的な活動については、現在、私が関わる活動のことになるが、以下の通り。

*三好ジオパーク構想ともなれば地域全体で総合的に取り組む姿勢が必要ですが、私の場合は在日・来日外国人対象の親善交流・ガイド活動なので。狭義のジオツーリズムとも関係のありえる活動になります。その設定の基で、ガイドコースの場所になっている鎌倉・横浜・川崎・三浦半島・大山ほか、小田原・箱根以外（小田原・箱根エリアは他のボランティア組織管轄の為）の神奈川県全域などをジオ・エコ・カルチャーの視点を持って案内し、各ゲストの日本理解を深め、日本滞在や訪問を楽しんでもらいたい。欲を言えば、人の生活と場所の歴史と文化及び土地の地形・地質との繋がりを感じ、出来れば自国の場合にまで想いが飛んでいくヒントになれば嬉しい。

*最近、神奈川の大地の生い立ちをまとめた本「日本海の拡大と伊豆弧の衝突」平成26年を読んだが、ヒントがいっぱいあった。プレートテクトニクスとブルームテクトニクスで地球は動いているが、その地球の表面を構成する十数枚のプレートの内、実にその4枚が集中する場所が相模トラフ、鎌倉の沖合にある。知れば知る程、神奈川の大地は実にユニークだ。

*しかし、対象者が外国人であり、各ゲストに興味を持ってもらえるか、ジオパーク的観点からの説明で日本の理解につなげるためにはどうすればよいか等、ハードルは高い。これから我々のグループメンバーと一緒に検討したい。